



第413号 2008年7月1日

編集・発行

アカシア会

アカシア会事務局 住所・連絡先

〒734-0005 広島市南区翠1-1-1

広大附属アカシア会館

TEL & FAX 082-253-5581

通算 496回 例会



母校講堂 (右上は渡り廊下のある時代のもの)

平成20年度 アカシア会総会

日時: 平成20年7月17日(木) 午後6時30分

場所: アンデルセン(本通)

平成19年度事業・決算報告、監査報告
平成20年度事業計画・予算案

「子ども・宇宙・未来」

初代宇宙教育センター長 的川 泰宣氏(50回)
NPO法人子ども・宇宙・未来の会理事長

①「母から授かったいのち」と「宇宙進化の過程で生まれたいのち」の意味 ②津々浦々の人々が手をつないで育んで行く子どものイメージ ③日本から世界に向けて発信する大切なメッセージについてお話しします。

8月例会: 8月18日(月) 午後6時30分

場所: 帝劇会館4階 モーリー・マロンズ

「胸を張るぞ! 日本の文化だ!」

(株)チュンソフト営業部長 中西一彦氏(72回)

新卒98回生の皆様 無料ご招待。詳細は同封プリントで。

9月例会: 9月17日(水) 午後6時30分

場所: アンデルセン(本通)

「アカシアが発信する平和への祈り」コールアカシアの皆さん

懇親会費は4,000円(77回以降の卒業生2,000円)

アカシア会員なら参加自由。お気軽に直接会場にお越し下さい。

通算 500 回記念例会!

11月例会: 11月17日(月) 午後6時30分

場所: ANAクラウンプラザホテル広島

500回を記念しての企画を準備中、ご期待ください。

2009年度版 アカシア会会員名簿

予約受付中!

(なくなり次第予約受付終了)

2008年10月発行予定 定価3,500円

同封の振込用紙で8月末日までにお申込ください。

住所変更などのある場合は、7月末日までに

☎01300-4-13111 「アカシア会」

原爆死没者および戦没者 追悼の集い

8月6日(水) 午前9時

広大附属高校内 慰霊碑前

詳しくは、20頁で

Contents

写真(母校講堂)、総会・月例会案内… 1	東京アカシア会、59東京アカシア…14
井内慶次郎氏を偲ぶ…………… 2	近畿アカシア会……………15
アカシア夜話③ 井内慶次郎氏(32回)… 4	東海アカシア会、6月例会レポート…16
教師列伝(下)のご案内…………… 6	同期会だより……………17
長沼健氏を偲ぶ…………… 7	総会議事資料、構内記念碑・記念樹⑨
アカシア探検隊 大島賢三氏(53回)… 8	常任幹事会、事務局だより……………19
友誼の御園……………10	出てもらうてもええかいのお⑩
小野文子先生を偲んで……………12	追悼の集い告知……………20

井内慶次郎氏(32回)を偲ぶ

井内先輩を偲んで

アカシア会会長
石井 泰行(43回)

私達の最も敬愛する32回の井内慶次郎先輩が亡くなりました。井内先輩は、文部省の事務次官を勤められた後も教育関係のトップを務められて、その一生を教育に捧げられました。

昨年の12月に先輩の訃報に接し、直ちに東京の43回の児玉幸治君と連絡を取りながら上京の準備をしていましたが、奥様のご意向で親族のみで密葬を営まれるとの由で、何うのはご遠慮いたしました。併しその後のお別れ会には公務が発生して何うことが出来ず残念で残念でなりません。

廣大附属高校に就いては、前身である広島高等師範学校附属中学校の先輩として常に御心にかけて頂き、然も他の附属学校とも差別せず、特に三原に就いては「あれは山中さんの寄附だからなあ、寄附して頂いたことを忘れてはいけない」と吾々にも話しておられました。

井内先輩はなかなかの美食家で、料理のうまいところへお連れすると「おい、良いところへ連れて来てくれたなあ」と御機嫌で召し上っておられましたし、且つ飲んでおられました。お住まいの近くにある赤坂のうまいものやと新橋にある鮎の名店には是非お供したかったのですが、敵わず心残りです。でも広島から送られた牡蠣を夕食に召し上がって眠られて大往生とは宜なるかなと思います。年末に亡くなって元旦に年賀状を頂いたのは、同期の児玉幸治君も言っていました、井内先輩と46回の熊野英昭君のお二人でした。額へ入れて大事に大事にしたいと思っています。

額と言えば私事ですが、最近、岳父の児玉希望の画債帳というのが出てきました。これは日本画家が絵を買って下さった時の覚え書きで絵の簡単な説明と尺五とか尺八とか大きさも記入してあるものですが、井内先輩のご尊父にかなり買って頂いておりました。しかしこれも戦前のことですから、残念ながら原爆で焼失していると思われるのですが、戦前からご縁があったのだなと思っています。今後は御浄土よりお導き下さい。

合掌



井内慶次郎先輩、 有難うございました

東京アカシア会会長
的川 泰宣(50回)

井内先輩が文部省の課長を務められていたころ、私はまだ高校生から大学生くらいでしたから、先輩を存じ上げる機会すらありませんでした。その頃、東京大学には糸川英夫先生がおられて、日本で開発したロケットを外国に輸出するだの何だのと、いろいろともめていたようです。過去に例のないことに挑戦することが、糸川先生の生き甲斐みたいなものでしたから、それを事務処理されていた井内先輩の御苦勞はいかばかりかと推察します。

山口先輩から、「児玉幸治先輩を継いで東京アカシア会の会長になれ」と言われたとき、どうしたものかと、偉大な先輩を六本木の日本視聴覚教育協会に訪ねました。井内先輩はその会長でした。会議中のご様子でしたが、すぐに出てこられて、すでに状況は御存知だったらしく、「やあ、これから大変だけど、よろしくお願いしますよ」と、(こちらの逡巡をものともしないで)気楽に声をかけられ、あとは「東京アカシア会」の「ト」の字も出ないまま、あの糸川時代のことを30分余りも滔々と述べられました。

その挙句、「ところであなたはいくつにおなりかな？」と。何のことかと年齢を披露したところ、「そうか、天文台長になった観山正見くんは10歳くらい下なんだな」と、感慨深げに語られて、「あの子は大学に入った時にお父さんに連れられて私のところに来てね。そんな坊主がね、こないだ、天文台長になったと言ってわざわざ来てくれたん

だよ。ちゃんとやれるのか？と聞くと、大丈夫ですって答えていたから、まあ自信はあるんだろうね。ハッハッハッ、じゃあ、これで」という次第でした。

日本初の人工衛星「おおすみ」の打ち上げ準備に忙しかったころ、使い走り文部省に資料をお届けしたこともありましたが、でもいつも井内先輩はとても忙しくしておられて、お声をお聞きするのは、決まって1分くらいのものでした。ですから、六本木でご一緒したあの時間帯は、私にとって素晴らしい思い出となりました。

文部省の事務次官として、温かいお人柄でありながら厳しい腕を揮われた井内先輩が、廣大附属の大先輩であることを私が知ったのは、実は、先輩が東京アカシア会の会長に就任されてからのことです。驚きもし、嬉しい限りのことでした。東京アカシア会も、私のような(体重は重い)人間の軽い人間が会長では行く先が思いやられると思っていた矢先、若いメンバーが活性化のために大団結をして、大いに盛り上げております。先輩が腕に撚りをかけて育ててくださった東京のアカシアも、大きな花を咲かせつつあると確信しております。

私個人としての生き方はもちろん、東京アカシア会の前途について大いに御教示いただきたいという期待も、今は詮無いことになりました。この国のために数々の贈り物をしてくださった井内慶次郎先輩の御苦勞に心から感謝し、御冥福を衷心よりお祈り申し上げます。有難うございました。

やさしい気骨のアカシア人

松尾 康二(46回)

急逝だった。昨年12月25日早朝、心不全で亡くなられたが、前夜はご自宅で広島の牡蠣の料理を召し上がり、普通におやすみになったということだったのだが…。

井内大先輩に初めてお会いしたのは44年前、昭和39年4月であった。当時私は毎日新聞の社会部記者で、いわゆる事件記者のトップブランド、警視庁の記者クラブ「七社会」から文化の香り豊かな文部省記者クラブに配置換えになったときである。着任するとすぐに、広報担当社が「大学課長がお呼びです」という。警視庁では殺人、強盗、放火という殺伐たる「強力犯」担当で、歳も26歳、生意気盛りで、文部省の課長と言われても警察幹部とどっちが偉いかわかっていなかったし、先方から

呼びつけられる覚えはない…とまあ多少意気込んでドアをノックした。ドアを開けるやいなや「君は附中だそうだな」。そしてあの豪快な顔がニコニコしている。細められた目は「俺もそうだよ」と言っている。この一発で意気込みも何も瞬間に消えた。直立不動、最敬礼となった。

「君は東京アカシア会を知っているかね」「知りません」「それじゃ僕から話しておくから入れよ」「よろしくお願ひいたします」。まもなく連絡があったメンバーにして頂いた。

少しあとだが、某超有名新聞(以下A紙と略称)がわが国宇宙ロケット開発の父、故・糸川英夫博士への、いわれなき誹謗、中傷としか思えない記事を書きまくったことがある。これは特定の記者の個人プレイであることがわかってきたから私は一行も書かなかったが、他社の中には追随するものも出始めた。そのうち、A紙上に糸川博士が「予算を流用している」と言う文章が出てきた。「流用」と言えば普通公金の私的消費を意味する。こうなれば犯罪である。この記事が出たとたん、会計課長になっておられた井内さんが記者クラブに血相を変えて乗り込んでこられた。

「流用とはなんだ。予算決算をわれわれ事務官がやれば一銭一厘びたりと合わせてみせる。しかし研究の展開によっては、当初の使用目的とは違った使い方もある。それは大学の先生方にお任せしてある。そのために大学には特別の会計制度をとっている。それが『大学の自治』であり、この大学の自治があってこそ『学問の自由』があり、わが国は明治以来、この会計制度で『学問の自由』を保障してきたのではないか。そんな初歩的なことも知らんのか…。」大意こんなことを、「ですます」口調で話されたはずだが、記者連中を怒鳴りつけられたような記憶しかない。すでに井内さんの豪傑ぶりは知られていたが、記者席は寂として声なし、とりわけA紙は「大学の自治」「学問の自由」が大好きな新聞だったから、名指しこそされなかったものの文部省担当記者は小さくなっていった。(この記者は糸川記事に無関係だけでなく、批判的だった)「それでは」とさっさと退席されたが、私は内心拍手喝采であった。

当時、東京アカシア会は卒業即入会ではなかった。何しろわが国財界の重鎮、永野重雄、櫻田 武、伍堂輝雄、

そういった大先輩がひしめいておられ、若造ではとてもついて行ける雰囲気ではない。卒業後しばらくたって、しかるべき紹介があって入会するシステムだったようである。そもそもわが国の指導的人物、或いはその予備軍のような方々の勉強会からスタートした(「^{えんじゆ}槐会」と聞いているが、そういう方々だから総会でも予算、決算をおろそかにせず、厳しいチェックが入る。何しろ怖かった。それが終わって懇親会である。締めくくりはかならず「校歌」の前に「臨海の歌」。これが絶叫阿鼻叫喚のようで全く音楽になっていない。それでいいのだ、それが楽しいんだ、そういう雰囲気であった。

「アカシア会はそれでいいんだ。楽しければいいんだ」の部分だけを切り取ったのは井内さんだと思う。しばらくご無沙汰して行ってみると、総会懇親会一緒に、執行部から予算決算の読み上げがある。すぐに井内会長が「予算決算、一括上程します。異議ありませんか」と迫力のある声の語尾と音量が上がる。そう言われると間髪をいれず「異議なし」「以上総会終り」というのが自然の流れである。「会長挨拶省略」楽しい会になった。「アカシアが好きで好きでたまらない、そういう人が集まったのがアカシア会なのだ」と、お話になったのを聞いたことがある。そのご趣旨にそって、東京アカシア会の懇親会では、懇親会締めくくりの歌のときには、みんなで肩を組んで、会場いっぱい輪を作って揺れながら歌うようになった。新制の女子と肩を組むのが照れくさそうな旧制の先輩もおられたけれど。

お葬式は1月18日、東京・青山葬儀場で盛大に開かれた。席上、井内さんの文部事務次官の先輩、天城 勲さん(このお方は現役時代、「日本の経済成長は教育でやる」と断言して教育のマンパワーポリシーを実行に移した切れ味鋭い豪傑である。井内豪傑がそれに次ぐ)が弔辞で秘話を語られた。入省のときの辞令が「委嘱」という、今で言えば100%のキャリア扱いではなかったらしい。その後事情を聞いたら、入省の試験で筆記は合格したが、口答試験で試験官と議論を始め、喧嘩になってこちらは不合格になった。結局入省はされたわけだが「裏口から入ったわけではない。そして井内さんは議論では決して妥協しない人だったから、それが喧嘩に見えただけに過ぎない。気骨の士だった」。

もう一人の弔辞と葬儀委員長のことばでも「気骨の士」はかならず入っていたが、「やさしくて温かい人だった」という言葉もかならず入っていた。そして文部次官退官後もずっと後輩の指導を続けておられ、10月の歴代次官会議の席でも懇切に指導されたと言う。この席で重大なことがわかった。現役文部科学事務次官の弔辞で、井内さんは次官の時代、「ゆとりのある高等教育を充実することに尽力された」と言うのである。井内さんが次官になられたのは昭和53年であるが、実を言うとその頃から文部省のやり方がスマートになったような気がしていた。「ゆとりのある教育」の言葉に、自由と自律、全人教育、つまりわがアカシア精神と一致するものを感じる。井内さんの文部省OBとしての存在とのお人柄、指導力を知っていたから、井内さんの影響力の結果ではないかと、文部省のやり方にアカシアの匂いを嗅ぎ取っていたわけだが、それがこのお葬式で始めて納得できた。

最近「ゆとり教育」の見直しと言われているが、これは基礎学力の充実であって、井内さんの「ゆとり」、つまりアカシア精神とは矛盾しないと思う。「時間数が増える」のところだけで「負担増加」、或いは「折角ここまで来たのに」と拒否反応するのはまちがいだと思う。「ゆとり」の意味する「良く学び、良く遊べ」は戦前の道徳教育の第一の原則であった。「遊び」でまず学びの場を楽しくすることによって自発性を喚起する。学びの場を楽しくすることの重要性。わが校歌は1が文化、2番が学力、ともに「たのしやみとせを、わがまなびのや」となっているではないか。

残された予定表は、来年までほとんど埋まっていたそうである。教育が曲がり角に来ている今、もっと長生きしてもらって、アカシア精神で文部の後輩の指導、つまりアカシア精神による教育行政のさらなる展開に当たっていただきたかった。残念でたまらない。

合掌

井内慶次郎氏略歴：大正13年1月6日生まれ。広島高等師範学校附属中学校から旧制広島高校を経て、昭和22年東京帝国大学法学部卒業、同年文部省(現文部科学省)入省、53年文部事務次官、55年国立教育会館長、平成1年東京国立博物館長、5年放送大学教育振興会会長、9年日本視聴覚教育協会会長。11年11月勲二等旭日重光章、その他各種審議会委員、評議員をつとめる。19年12月25日死去。享年83歳。20年1月正四位叙位。

アカシア夜話 アカシアンナイト
第3話

井内慶次郎先輩を追悼して

平成19年12月25日、文部省事務次官などを歴任され、文部行政に多大な足跡を残されるとともに、東京アカシア会の会長を勤められるなど、母校やアカシア会に大きな貢献をされた、井内慶次郎先輩(32回)が突然ご逝去されました。

今回のアカシア夜話は形式を少し変更し、広島と東京で開催された追悼座談会の様子をご紹介します。

広島では2月22日に石井泰行アカシア会会長(43回)、景山三平前校長、前川功一広島経済大学学長(52回・前広島大学副学長)の3人が、東京では2月25日に田中敬元大蔵省事務次官(32回)、山口信夫前日本商工会議所会頭(33回)、児玉幸治元通産省事務次官(43回)が集まり、思い出を語り合いました。



百周年の祝賀会で乾杯の音頭をとる井内さん

広島の座談会

石井：井内さんは伍堂輝雄さん(14回)の後、昭和40年代半ばに東京アカシア会会長を務められました。それまでは、東京アカシア会は槐(えんじゅ)会と言って、附属の大先輩の経済人ばかりの私的な集まりでしたが、伍堂さんや井内さんのころから、卒業生なら誰でも入れるようになった。アカシア会らしい雰囲気ができてきた時期です。私は、事務局担当として井内さんに仕えましたが、きちんとした人でね。去年の年末に夫婦で年賀状を投函して、何もかも済ませて旅立たれました。最後まで井内さんらしかったですね。前川：広島大が独立行政法人になった時に、外部の有識者と内部と半々で作る

大学運営協議会に入っただき、助言をいただきました。広大を本当に大切にしてください。年に4回開く協議会の前に、事務局と議題の説明に伺うのですが、座談の名手で、非常に記憶力が良くお話が面白い。附属のころのお話で、先生に「井内君はいるか？」と当てられて「いないです」というジョークや、肩を脱臼した時の治し方などよく覚えています。私の父、前川力は18回卒業で、広大の理学部長をしていたのですが、全国の理学部長会で、当時、文部省で大学関係の担当をしていた井内課長と親しくさせていただいていたようで、「あの前川学部長の息子か」と言ってずいぶん可愛がっていただきました。景山：私は井内さんから見れば随分、若輩なのですが、母校の校長という立場を尊重して、リスペクトを持って接していただきました。毎年4月の年度初めに、校長と副校長は井内さんが会長を務めておられた日本視聴覚教育協会(東京・赤坂)に、挨拶に伺うのが慣例になっていました。南村俊夫さんが副校長の時にはもう始まっていたらしいですから、創立80周年以前から行っていたようです。この時、禅問答をして帰ってくるんですが、手帳を整理してみると、これを含めて2003年4月～07年3月の校長在任中の4年間に11回、親しくお話をさせてもらいました。一番印象に残っているのは、アカシアの百周年記念誌を発行する際に、編集責任者の小山清元副校長が、井内さんに巻頭言をお願いしたところ、頑として受けていただけない。「自分より先輩で、阿川弘之さん(29回)も含めて達者な方がおられるのに、私が書くわけにはいかない」とおっしゃる。最後は、私が校長としての立場でお願いに伺うと、引き受けてくださいました。それぞれの立場、肩書きの人を立てて、ご自身は一步引いて、絶対に自慢話のようなことはなさらない方でした。



石井泰行さん、前川功一さん、景山三平さん

前：私が広大の副学長をしていた2004年ころ、広島市中区千田町の広大跡地に、翠町の附属をまた移転させようという構想がありました。東雲も含めて移転し、小中高の校長も1人にするという構想で、設計図まで書いて、井内さんに相談に行ったことがあります。「いい案だけど、難しい話だ」とおっしゃいました。結局、文部科学省がそんな金のかかることはダメだということを実現しませんでした。文部省を退職してからも、後輩と20年も30年も温かい付き合いが続く。この案を曲がりなりにも検討いただけたのは、井内さんの人間性によるところも大きいと思います。石：他の省ではないね。親分肌で、後輩から慕われていました。



2003年、視聴覚協会の事務所にて

景：井内さんには「明治文教の曙」(雄松堂)という著書があります。幕末、明治からの文部行政の歩みをたどったすごい記述で、初等中等教育の現場にも目を光らせ、歴代の現役を指導してきた井内さんだから書けた著作です。石：附属の建物ははずいぶんオンボロですけれど、先生方が聞いておられる井内さんの尽力というのはどうでしたか。景：06年6月に附属学校へ来ていただいて、附属のビジョンなど説明して、その後の補正予算で、福山と合わせて約4億2千万円の耐震補強の為の予算がつかしました。私たちは、もっと大きな改修を望んでいたんですが。それが今年度、小学校の大型改修や新しい棟の建設にかなりの額の予算が通り、目立たないところでかなりの努力をしてくださったんだと思います。前：文部科学省に附属の増改築もお願いに行ったこともありますが、文科省は国立大学の増改築は認めないという方針だし、附属より古い所もいっぱいあります。時代が悪かったんですね。景：附属の教育は、進学率云々でなく、内容に偏りのない教養教育です。全人教育であるだけに、しんどいですがそのあたりのことを理解して、皆実の本校だけでなく広島大学全体の附属のことを考えて、陰に陽に尽力してくださいました。

東京の座談会

○入学のころ

田中：昭和11年、僕は袋町小学校から入学したんだけど、井内君は本川小学校。1学年が84人で、そのうち附小から19人が入っていたね。**山口**：私は千田から入ったんですが、中学から入った65名というのは、それぞれ全国から入ってきたという感じでしたね。**田**：僕は南組の副級長で、井内君が北組の副級長。毎日朝礼があるんだけど、その前に副級長が点呼をする。今でも名前を覚えてるけど、「相原、青山、安達…」ってね。それを井内と僕がずっとやらされちゃって。**堀**：僕らの頃も始めのうちは毎日朝礼があって、先輩達は皆昔のままのスタイルでね。僕は芸備線で汽車通学なんですけど、市内電車なんかに乗ったらまずだめで、上級生が「この中に電車に乗ってきた奴がいる！」と言われて、誰も手を上げないと。**田**：連帯責任！**堀**：「女の子はあっち行け」と追っ払われてね。「貴様ら、有態に言わないのは全員の責任だ！」っていうので、全員ぶん殴られてました。(注・児玉さんは新制中学の第1回生。旧市内は徒歩通学が原則だった。)



1年北組の集合写真

○スポーツ

田：運動部はね、我々の頃はサッカーとバスケットだけ対外試合が出来ました。あとはクラス対抗とかしてました。**田**：それで曾田君(和之32回・第2話登場)がね、まず籠球班を作って、彼に誘われて私や井内君、1年後に山口君が入ってバスケットをやりました。3年生になったら井内君と一緒に排球班を作って広高(旧制広島高校)に練習試合に行っただけです。井内君はバレーボールがたいへん好きでしたね。**田**：バスケットは私が5年生の時に1・2年生が広島市内のジュニアの大会で優勝しました。小さな試合で、しかも勝ったのは下級生なんですけど、本当に感激しましてね、今でも一生の思い出ですよ。サッカーは昔から強かったけど、バスケットもね！

○サッカー

堀：サッカーはちょうど私らが1年生の頃、昭和22年の正月に中等学校全国大会で優勝しましてね。4年生で長沼健さん(39回・元日本サッカー協会会長)なんかがやってたわけです。**田**：その頃に私が復員して南方から帰ってきてね。僕はサッカーもしてたから、冬休みに文理大のグラウンドで先輩面をして長沼を教えたんだね。**田**：全員サッカーでしたからね。校庭のアカシアの木の間をゴールにして、休憩時にはボールを蹴ってましたね。しかし、井内さんも田中さんも運動神経ありましたよ。人数少ないし、校内のクラス対抗は、運動神経がある人は水泳から何から皆出るんですね。**田**：入学の時の84名が2年生から幼年学校に行く人が抜け、4年から高校へ入る人、陸士や海兵に入る人が抜けて、5学年の総数が常に400人を割ってました。それだけお互いが顔見知りになって、仲が良くなるんですね。

○高校・大学・学徒出陣・文部省

田：井内君は4年修了で広島高校に入りました。**田**：広高はともかく田中さんの一高は、4修で入れるような所じゃなかったです。**田**：井内君は早生まれでね、私より1年先に東大に入りますが、学徒出陣は1年後。私は昭和18年の12月に陸軍に入って南方に出征したんですが、井内君は19年12月に海軍に入り東京の芝浦補給所と言う所において、終戦になったらすぐ復学できたんです。**堀**：それで次官になったのが、井内さんや3年下の粟屋さん(敏信35回・元建設省事務次官)が先で、田中さんが少し後になったんですね。**田**：粟屋さんは戦争が関係なくてスーッと行ったんですね。私が若いころ、当時大蔵省の主計官をされていた、ソ連での抑留で一緒だった相沢英之さん(元衆議院議員)が「銀座で飲んでるんだ、来い」って言うので行ってみると、当時文部省会計課長の井内さんが一緒におられ、上半身裸で「おい山口、校歌を歌おう」とか言われて、元気良かったですよ。井内さんはちょっとパンカラでしたからね。旧制広島高校の時はストームなんかやってね、電車をしばしば止めたりしましたが、中に井内さん入ってましたよ。田中さんはね、黙っていても、すらっとしてもてるからね、かっこよかったですね。**田**：当時はそうでしたね。僕も附中時代からスポーツなどを通してそういう彼を良く見てたし、仕事での情熱を見



激励会 昭和51年7月築地・河庄にて

てそういう面の井内君をずっと見てたんですが、最近書かれた彼の随筆を読んでもみると、情緒豊かな事も沢山書いてあって、ああ、井内君にはこういうロマンチストな面も有ったんだなあと感じました。感激をしたんですけれどね。**田**：井内さんは官房長を2回やっておられましたね、1回やった後、大学紛争があったもう1回。だから大官房長でしたね。**田**：井内君は会計課長もやり、官房長もやったんで、僕は蔵省主計局ですからね。彼の予算折衝をやる情熱というのは、それはもう大変なものでしたね。本当に、あんな情熱を持って教育行政に当たった人は居ないと感じますね。

○母校への貢献

田：人柄も良かったし、人の面倒も良くみられましたからね。文部省の関係で物凄く人望がありまして、文部省も本当に井内さんの言う事を良く聞きました。母校の為にもずいぶんご苦労されたんじゃないかと思いますよ。



90周年の祝賀会にて

堀：そうなんです。私が東京アカシア会の会長をやった頃、東京に母校の校長先生なんか来られると必ず「我が附属」がどうなるかと言うのが話題になる時期があったんです。だけど井内さんは「心配するな」と。何をどうするのかおっしゃらないんだけど、何かやらなくちゃいけない時には君らにもちゃんと言うから心配するなと。**田**：戦後、各県に国立大学ができて、全部教育学部ができましたからね。だから母校も同じ附属学校だから、他と同じで良いじゃないかという意見が非常に強かった。広島大学の教育学部は

旧制高等師範などで、これを最後まで守ろうとされてましたね。H：戦前の中学で国立なのは東京と広島の高師附中だけだからね。M：それと、学習院も国立でした。

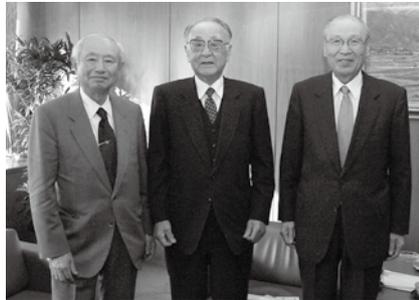
○追悼

H：しかし井内君っていうのは、本当に悔いの無い一生だったと思いますね。あれだけ一生懸命、教育行政に情熱を注いで。最近の10年くらいはゆとりもできてこういう随筆を書いたり、自分の時間を持って豊かに生きたというので。本人には悪いけども、苦しまずという事で、本当に大往生で。M：日曜日にね、広島から送ってきた牡蠣をおいしい、おいしって食べて。それで奥さんと一緒に、日中に書いた年賀状の宛名を全部書き終えて、ポストに入れに行き帰られてね。誠に満足して「それじゃあ、おやすみ」って、それから大往生。H：そうですよ。だから本人が亡くなってるのに年賀状が来たというのは、前の熊野君(英昭46回・元通産省事務次官)の時もそうだったけど、正月に年賀葉書を頂いて「ああ、お元気なんだな」と思って、ご逝去を知らない方が沢山居ましたね。

○郷里に思うこと

M：いつも広島のこと、母校のことを思っています。いい学校であって欲しいし。後輩が学生らしく堂々と、いつも夢をもって頑張ってくれる事を願っています。附属の生徒として、満足した学生生活が送れる環境で青春を謳歌して、将来社会に貢献できるようになって貰えば良いと思っています。日本は人だけが資産です。先の戦争で破壊されま

したけど、人々の勤勉さや教育、技術などは残ったんです。それで今があるんですから。人の教育というのは、家庭教育、社会教育を含めて、立派で強く自慢できるような若者が育ってこれなければ、これからの日本は幸せにならないんじゃないかと、このごろつくづく思います。H：私も広島の時代を思い出して、附属中学は、こんな優れた教育を授けてくれる学校は他に無いと思います。そういう意味で母校にいつも心から感謝しています。子供や孫の受けている学校教育を見ると、僕なんか附属で受けた教育と格段の差が有ると思います。そういう意味で「心のゆとり」とか「公德心」「道徳心」がしっかり身につくような教育を、生徒諸君や先生方には心がけて欲しいと思います。



元玉幸治さん、田中敬さん、山口信夫さん

H：広島への先行きについては、本当に難しい所があるんですよ。私は通産省以来、地域振興に関する政策を出して広島の反応を見てると、いつも動きが遅いんです。気候が温暖で、食べ物は美味しいし、ある意味バランスの取れたそこそこ幸せな地域が出来ちゃっていて、殻を破れないでいるんだと思

うんです。道州制の問題をとってみても、広島はどういう風な位置づけになるんだろうという事、岡山の人にはものすごく考えているんですよ。だけど広島は、当然に今の様な状態ですとやっていけると思ってるんです。だから、その辺りの感覚をうちよっと高めて頂いた方が良くはないかと思ひます。そういうところから、色々な物を活性化していくようなエネルギーが出て来そうな気がします。

編集にあたって

広島でも、東京でも井内先輩の思い出と共に母校や広島への想い等、話が尽きる事はありませんでした。ここに紹介できたのは、ほんの一部にとどまる事をお詫び致します。

井内先輩を思い出すと「アカシア会の同窓生というのは、同じ女性に初恋をした仲間のようなものよ!」とにこやかにおっしゃられていた姿が目につかびます。

長きに渡り、母校、そしてアカシア会がお世話になりましたことを感謝し、これからも、お浄土から我々をお見守りくださるようお願いして、追悼のペンを置きます。

(本文中、先輩に対する敬称は「○○先輩」「○○さん」に統一致しました。)

文責・編集：甲斐 稔(63回) 編集：山手秀之(70回) 河本良子(63回) 協力(東京アカシア会)：大澤郁枝(52回) 尾籠裕之(56回) 中村 英(57回) 兼森孝(60回)

『新・教師列伝(下)』刊行される!

(元副校長 小山 清 著、B6版、97ページ)

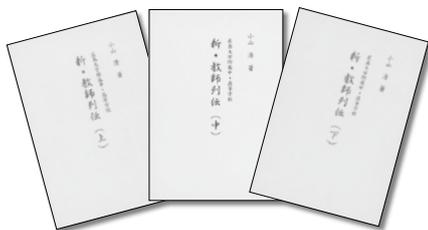
平成15年2月から19年1月まで、会報誌面に48回にわたり連載された「教師列伝」では、多くの元教官の横顔が紹介されました。その中から150名の先生方を描いた『新・教師列伝(上)、(中)』が、これまでに上梓されています。

このたび最終編として、小山先生最新の力作『新・教師列伝(下)』が4月に刊行されました。明治～昭和40年代に在籍された元教官84名のほか、巻末には尚志会(明治35年に開校した広島高等師範学校の卒業生を母体とし、現在その流れを継いだ広島大学文学部・教育学部・理学部の卒業生で組織されている同窓会)の物語も掲載され、興味をそそる内容となっています。

ご希望の方は、1,000円(送料込み)を添えて、アカシア会事務局までお申し込みください。(1月全国版で予約して下さった方には既にお送りしております。)上巻・中巻も各1冊1,000円で販売中。

—「新・教師列伝(下)」の内容—

掲載されている先生方：[明治時代に赴任] 牧 一、原 貫之助、永野武一郎、篠崎敏治、松原 厚、飯島東太郎、山田権三郎、横手元伸、山本政人、川手笹市、上野賢知、[大正時代に赴任] 梅林寺 昂、幣原 坦、守内喜一郎、山本 寿、浅井 実、塚本常雄、安部 新、山口俊彦、中田俊造、石黒 立、西田利八、井芹善蔵、森田良克、清水芳徳、長谷川与三治、松村修三、安達成之、金光弥一兵衛、大浦精一、渡辺豊一、古屋架婆丸、高橋彦三郎、津田芳雄、内田泉之助、一色智二、華岡鋭藏、関原吉雄、林 実、湯浅初男、大槻正一、佐藤仙一郎、[昭和時代に赴任] 堀尾茂光、柳井可也、戸田豊三郎、奥田 明、嵐 紫郎、佐藤清太、竹内尚一、結城清一、鎌田芳雄、榊井迪夫、山本博之、塚部 正、山口義男、山崎英夫、菅 正巳、仲 頼次、寺田角一、[昭和20年以降に赴任] 寺田照之助、田中浩造、錦部 昇、清水 博、多幾山治子、原田直紀、三迫初男、石田一三、御沢金弥、岩竹 亨、植田八郎、杉山 巍、小野文子、森岡文策、和田日出夫、オールピン、カルグレン、三好 稔、常重八重子、岡村貞雄、白神澄二、板野暢之、丸本婦美子、村上 誠、萩野源一(以上84名・全員書き下ろし)



長沼 健氏(39回)を偲ぶ



略歴: 昭和5年9月5日広島市中区生まれ、24年3月広島高等師範学校附属高等学校卒業、28年3月関西学院大学卒業、30年3月中央大学卒業、同年4月古河電気工業入社、42年4月日本蹴球協会(49年9月財団法人日本サッカー協会)理事、51年4月専務理事、62年4月副会長、平成2年藍綬褒章受章、6年5月会長、10年7月名誉会長、14年7月最高顧問、16年4月旭日中綬章、その他団体では日本サッカーリーグ、日本フットサル連盟、日本体育協会、日本オリンピック委員会等の重要な役職を歴任、数々の賞、表彰を受ける。20年6月2日肺炎のため、東京都内山王病院にて死去。享年77歳。

サッカー選手・監督歴: 昭和22年全国中学校選手権大会優勝、23年国民体育大会(高校)優勝、30年天皇杯準優勝、31年五輪メルボルン大会参加、35年と36年天皇杯優勝、39年五輪東京大会監督、43年五輪メキシコ大会監督・銅メダル・フェアプレー賞

長沼 健君を偲ぶ

田中 清司(39回)
(アカシア39回同期生)

君の悲報は多くの人に衝撃を与えた。そして、その衝撃の強さこそが君の人格を示すものであった。「今にして、誰れか百年の形体を保つべきや。我や先、人や先、今日とも知らず明日とも知らず。」激動の中を生き抜いて来た39回生の世代にとって、この言葉は常に心の片隅に存在している筈であった。にも拘らず、何故君なんだ。君にはまだやってもらわなければならないことが残っているのに…。

「セイジよ、蹴球部へ入ったら勉強が出来んようになると親父が心配しとるんじゃが本当か。」これは昭和18年春、入学するとすぐ蹴球部へ入っていた私に対しての健君の質問であった。「ケンさんよ。勉強の出来る奴は、何をしてても出来るもんじゃ。出来ん奴は何をしてても出来んもんじゃ。」「ほうか、親父にそう云おう。」それは君がボール蹴りゴッコから蹴球へと変わっていった第1歩であったなあ。そう云えば附小の球ケリ仲間には後年、錚々たる名選手がいたね。木村 現しかり、樽谷恵三しかり。

運命の昭和20年8月6日。この時以降、君は新しい生命感を持ったに違いない。そして君は君自身の人生に大きな足跡を残した。今、幽明境を異にして、小・中・高と共に過ごした日を振り返り、悲しみを新たにすることで。君のスポーツマンシップは必ず受け継がれるものと信じて筆をおく。

ナがい間の努力が結び
がんばり甲斐があったと思う

又かるピッチも何のその

マわった国々百を越し

ケっ果は日韓共催と外交上にも大成果んにゃ朋柄、そりゃ違う。皆の力があってこそ。成し得たことだよ。有難う。何処迄も謙虚な君であった。

謹んで哀悼の意を表します

鬼武 健二(48回)
(Jリーグ・チェアマン)

長沼 健さんとの出会いは、私が附小の頃にさかのぼります。

当時、附高の健さんのプレーが私に強烈な印象を残し、私はサッカーが好きになった、と言ってもいいような気がします。

その後、長い間同郷という甘えもあって、気軽にお付き合いをさせていただいておりました。それも、つい先日まで、「サッカー」とは何かを相変わらずの広島弁で導いていただいていたのに…

振り返れば、健さん率いる日本代表が、メキシコオリンピックで3位を獲得して世界を驚かせ、さらにJリーグの創設や2002年のワールドカップ招致など、ご苦勞のすえ日本サッカー界の礎を築いていただきました。お陰様で日本サッカー界の発展に繋がっています。心より感謝を申し上げます。

また、世界に多くの友人をつくられ、親しまれたことは周知のこととは言え、温厚で相手の気持を思いやるお人柄が、そうさせたのだろうと敬服いたします。

日本のスポーツ文化の構築や日本サッカー界の発展は健さんのご尽力の賜物です。そのご功績とご人徳は永遠に語り継がれることと思います。

健さん、ご苦勞をかけました。有難うございました。どうか、ごゆっくりお休みください。

サッカー王国広島の様

野村 尊敬(50回)
(広島県サッカー協会名誉会長)

長沼先輩は戦後の悲惨な日にあった日本をサッカーにより勇気付けられた。勝負師でおられた反面、決して人の悪口を言ったり、争いごとを好まない、温厚な人柄であられた。

母校在学中にフォワードとして、全

国大会等での優勝に貢献され、中央大学、古河電工の時代には日本代表として活躍された。五輪東京、メキシコ大会では日本代表の監督としての手腕を発揮され、メキシコでは銅メダルという快挙を成し遂げられた。また、93年のJリーグの発足に際し、プロリーグ対策本部長を務められ、Jリーグ加盟へ難色を示していたマツダへのバックアップを県、市、財界へ自ら働きかけられ、サンフレッチェは誕生した。

ワールドカップの日韓共催を成功に導いたのも、地球を何周も回るほど、長沼先輩が世界を飛び回ったからに他ならない。ただ、広島が招致を断念したことは、日本サッカー協会会長であられた本人が誰よりも無念であったに違いない。

私が最後にお会いしたのは、今年5月半ばの入院中にお見舞いに行った時であったが、よくおしゃべりをされ、奥様によるとその日は食事もよくとられたとのことで、こんなに早くお亡くなりになるとは思いもせず、再会できるものと信じていた。郷里広島への思いを強く持たれた、日本のサッカー界の偉大な神様であり、本当に残念でならない。

合掌

長沼 健さんを偲んで

小城 得達(51回)
(広島県サッカー協会会長)

突然の訃報に接し大変驚きました。

昨年の8月に広島でお会いした時はお元気なご様子でしたが、今年に入り少し体調を崩されておられるとお聞きし、心配をしておりましたが、亡くなられるとは思いませんでした。

健さんの思い出は、何ととってもオリンピックの1964年東京、1968年メキシコの2大会を、監督と選手の関係で戦わせてもらった事です。

健さんについては、一言で言うならば言葉少なく親分肌な人でありました。

メキシコ大会のとき、私が選手村の部屋で夜中に目が覚めた時、動いている人影を見つけました。よく見るとその人影は監督の健さんだったのです。剥いている毛布を選手一人一人に掛け直しておられたのです。数日後「毎日されておられるのですか」と訊くと笑っておられるだけでした。このように、非常に人情味溢れる人でした。

心よりご冥福をお祈りいたします。

アカシア会コミュニケーションサイトに長沼氏のインタビュー記事(1999年1月号のアカシア探検隊)を掲載しています。

アカシア探険隊

～MI・2008(夏)
国際協力機構本部潜入の巻～



53回 大島 賢三氏
～国際協力機構 副理事長～

谷：先輩、ジャイカってご存知ですよ
ね？

中：おー、知っとる。知っとる。こ
ない居酒屋で食べたで。イモにイカ
のダシがよ～しみとって、そりゃ美
味かった。

谷：それ、ジャガイカです。

中：ジョーダン、冗談。ジャイカイや
あ、カリブに浮かぶ島国よ。新婚旅
行で嫁さんと行った思い出の場所
じゃ♥

谷：それって、ジャマイカね。
(嫁さん以外と行ったら新婚旅行に
ならんじゃろ！)

中：ああそうか。そういや、カーブの
ユニフォーム着て野球の練習しとる
のがおったが、なんでかのう？

谷：そりゃ、ドミニカじゃ！
(やっぱ、嫁さん以外と旅行に行っ
とる！結婚当時はカーブアカデミー
はまだ無かったはずじゃ。)

中：あ、思い出した。子供の頃に勉強
で使いよったノートじゃ！

谷：それジャポニカ学習帳！(話にな
らんわ)もういいです。今度のインタ
ビュー中は黙っといてください。

というわけで、今回は53回卒のJICA
副理事長 大島賢三さんの登場です。



谷：本日は大変にお忙しいところ、お
時間を割いていただきありがとうございます。

大：ようこそ。遠いところをよくお越
しくできました。あいにくの雨で
大変でしたね。



広い応接室でのインタビュー

谷：早速ですが、在学中の頃の思い出
を教えてくださいませんか？

大：そうですね。附属とは直接関係
ありませんが、一番の思い出はA F S
(American Field Service)の留学
経験ですかね。高校2年生の途中か
ら1年間ミネソタ州の高校に留学し
ました。別々の高校でしたが、同じ
学年で5人(男3人、女2人)も留学
しましてね。

谷：5人は多くないですか？

大：ええ。ちょっと特殊なケースで
しょうね。広島からは確か6人いた
と思いますが、そのうち5人が附属
からでした。私も含め、そのうち4
人が後に外務省に入りました。[注：
伊藤哲郎氏、植田邦彦氏、PRATI(旧
姓 佐久間)成子氏、松崎(旧姓 今井)
圭子氏] そういうわけで、卒業は53
回ですが、52回にも同級生がいるわ
けです。当然附属での思い出もたく
さんあって、印象深いのが教育実習
ですね。英文法にめっぽう詳しい同
級生がいて、質問攻めにしたら、女
性の実習生が泣き出したりして
ね。私じゃないよ(笑)。それを見て
いた次の番の実習生(男性)が、教壇
に上がるなり股間をギュ～っと握り
締めましてね。ギョ～としましたが、
「とても緊張しているのでやった」
と。あがった時にはとても効果があ
るそうです。私も、後に国連でスピー
チをしなければならぬ時など、極
度に緊張した時はやろうかと思っ
た事が何度かありました。さすがに実
行したことはまだありませんが、そ
の度に当時の光景を思い出します。

それから、やっぱりサッカーですか
ね。私自身は卓球部でしたが、休み
時間やクラスマッチでサッカーを
やっていました。一級上には小城さ
んや桑原さんらがいたし、同級(52
回)には榎並君や河野徳助君が
いて、彼らとサッカーをして遊んで
いたので素人にしては結構レベルは高
かったかも。大学に入って、体育の
時間にサッカーをやったら先生や学
生から「サッカー部だったのか？」っ
て聞かれましたからね。

谷：高校卒業後は東京大学に進学され
ましたが、当時から外交官を目指さ
れていたんですか？

大：いやいや。大学合格当時は何も考
えてなかったですね。入学後に「さ
て、何しようかなあ」って考えてい
たところに、ちょうど留学前の仲
の良かった同級生(52回黒川成男氏、



P r o f i l e

昭和18年5月14日広島市東区生まれ、38年3月広
島大学附属高等学校卒業、41年9月外務公務員採
用上級試験合格、42年3月東京大学法学部中退、
同年4月外務省入省、58年1月在オーストラリア
日本国大使館一等書記官、59年1月参事官、60年
7月経済協力局技術協力課長、63年1月経済協力
局政策課長、平成2年7月在アメリカ合衆国日本
国大使館参事官、3年1月公使、5年8月国際協
力事業団総務部長、7年8月外務省大臣官房審議
官兼アジア局、9年8月経済協力局長、11年8月
総理府事務官国際平和協力本部事務局長、13年
1月国際連合事務局事務次長(アメリカ合衆国
ニューヨーク)、15年7月特命全権大使 オース
トラリア国駐劄、16年11月特命全権大使 国際連
合日本政府代表部常駐代表、19年10月独立行政法
人国際協力機構(JICA)副理事長

一年前に東大入学)に勧誘されて合
気道部に入ったんですが、それにハ
マっちゃいましたね。日々の稽古に
熱中し、年に3～4回ある合宿費を
稼ぐためのバイト、そしてデートに
時間の殆どを費やしていました。合
気道→アルバイト→デート→合気道
→アルバイト→デートの繰り返しで
した。

中：デートのお相手はどんなタイプ
の方が多かったんですか？それと何人
ぐらい？

谷：(も～、黙っという言うたのに。)

大：タイプは秘密ですが、人数は一人
ですよ。今では私の妻になっています。

中：ほ～。その辺のお話を詳しく。

谷：(聞かんでエエっちゃううに！)

大：大学入学後に知り合ったんですが、
実は彼女も私と同時にA F Sで留
学していたんですよ。それがきっか
けでお付き合いが始まって…。

中：今もラブラブってわけですねえ～。

谷：(このおっさん、なんとかしてく
れ～！)

大：それはご想像にお任せしますよ。
そんな訳で学業の方は当然低空飛行
です。試験もクラスメートにノートを
借りて、1日じゃ無理だから3日
漬けて何とか留年を免れる、そんな
事を繰り返していました。しかし
3年次になって、同級生たちの影響
もあったので「このままじゃ
いかん」と思い始めて、真剣に進

路について考えました。

中：そこら辺りがやっぱり我々と違いますね。

谷：（「我々」って、ワシもかい!!）

大：いや、そこはどうかわかりませんが、とにかく学業にまじめに取り組む事にしたんですよ。そんな中でクラスメートにつられて力試しに「外交官試験」を受けたら、運がよかったのかどうか知れませんが、合格しましたね。迷いましたが、1年留学してるし、それを取り戻す気持ちもあって卒業を待たずに外務省に入る事にしました。

谷：そうでしたか。外務省に入られてからの思い出を教えてください。

大：一つ目は湾岸戦争ですね。ワシントン勤務が始まる2週間前にサダム・フセインがクウェートに侵攻しましてね。「こりゃ大変な事になったぞ」と。普通は赴任しても2週間ぐらいは荷解きしたり、挨拶回りしたりするんですが、そんな暇は無くて初日から帰宅時間が午前2時とかになりました。大使の補佐をして米国との折衝その他で大忙しでした。国内でも自衛隊を出す、出さないで大騒ぎだったと思います。

二つ目は国連勤務ですね。コフィー・アナン事務総長の下で人道問題を担当して、問題を抱える世界の各地域を飛び回りました。そういう所は大体物騒な地域で、いつドンパチが始まってもおかしくないような感じなんです。9.11後に事務総長の親書を持ってアフガン入りしてタリバンの指導者に会いに行ったり、周辺諸国を廻っていた時なんか、「いつ弾が飛んでくるかもしれないから気をつけろ」って言われましたが「どうやって気をつけるんじゃ？」って思いましたよ。それから内戦の続く東コンゴの反政府軍のリーダーに会いに行った時の事も印象深いですね。訪問スケジュールが非常にタフだった事もあって、歓迎ディナーの最中、

眠気を追い払うのに必死だった時の事です。反政府軍のリーダーが歓迎スピーチで「ムッシュ・オオシマは日本の天皇陛下の子供で…」となった時は眠気がいっぺんに吹き飛びました。答礼スピーチの時に困りましたね。リーダーの顔をつぶすわけにいかんし、誤解されたままじゃいけないし、ほんとに困りましたが、一応私も法学部でしたから、憲法第一条を引っ張り出しましたよ。

中：「戦争放棄」ってやつですね。

谷：（そりゃ第九条。反政府軍を刺激してどうするんじゃ。）

大：……。「日本国憲法第一条には、『天皇は日本国の象徴であり、日本国民統合の象徴であって…』とあり、そういう意味で私も当然天皇陛下の子供の一人であります。」と答えました。それから人道援助ではないのですが、現事務総長の潘基文（パン・ギムン）さんが安全保障理事会で選ばれた時に議長として直接電話で話した事も印象深いですね。

谷：現在はJICA副理事長をお努めですが、そのきっかけはどのようなものだったのですか？

大：理事長の緒方貞子さんからの直接のお誘いです。外務省時代の1/4は現在の仕事に繋がっているものでしたから、喜んでお引き受けしました。

谷：先日は放射線被曝者医療国際協力推進協議会（HICARE）理事へのご就任も報道されておりましたね。

大：ええ。私自身が被曝者ですし、佐々木貞子さんと同じ幟町中学校出身ですから。でもアカシアのメンバー（62回三村義雄氏、広島市健康福祉局長）に就任を依頼されたのが決め手ですかね。

谷：アカシアメンバーへのメッセージをお願い致します。

大：広島出身の皆さん、そして特にアカシアメンバーは世界各地・各界で活躍されていて、結束が非常に固い。そのメンバーの一員である事に私は

誇りを持っています。そのアカシアの伝統・文化をこのまま維持・発展させ、世界に貢献し続ける事ができれば最高ですね。

谷：現役生徒諸君にもメッセージをお願いします。

大：月並みな表現で申し訳ないが、「夢を大きく持って欲しい。可能性を信じて突き進んで欲しい。」と思っています。夢を実現させるには大きな困難が待ち受けていますが、それにチャレンジする実行力を身につけて欲しいですね。手前味噌ですが、青年海外協力隊に参加した人たちの話を聞くと、まさにそう実感します。人の為に尽くす事が、結局は自らの人間形成となり、将来の糧になっている。夢を実現する、チャレンジを「実行」する力を養って欲しいと強く思います。

谷：本日はお忙しいところ、ありがとうございました。



中：今回もええインタビューが出来たのう。さっき新宿駅で土産買ったので。ほれ、持って帰れや。

谷：ほ～、気が利きますね。なんですか？

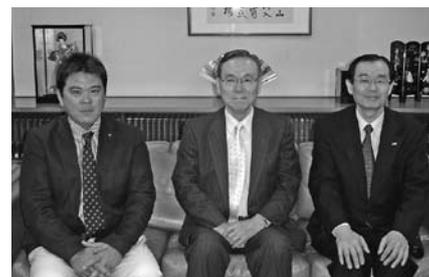
中：ジャコ天にイカの切り身を混ぜてあるやつ。うまそうじゃったでえ。

谷：も～いいです。いい加減にしてください！

中：そー、ムキになるなや、軽い冗談じゃなイカ。

中本 泰弘 (65回)

谷口 公啓 (73回)



左から谷口公啓(73回)、大島賢三氏(53回)、中本泰弘(65回)

講堂前の渡り廊下撤去。甦った旧制広島高校の講堂を大切に！

旧制広高と附中の歴史、並びに、講堂が附高のものとなったいきさつについては、アカシア会報5月号(411号)に掲載！
ご覧になりたい方は、アカシア会事務局にお問い合わせください。

増田 正和 (31回卒)



友誼の御園 ～母校だより～

ビジョンの共有を！



学校長 安原 義仁

昨今の附属を取り巻く状況には厳しいものがあります。学校へのさまざまな批判や不満も私のところに届きます。中には誤解に基づくのはずれの発言もありますが、学校に対する保護者や地域の人々の声には謙虚に耳を傾けなければなりません。例えば大学進学実績について言えば、私は一喜一憂する必要はなく、長い目で見ていけばよいと考えております。附属の良き伝統と歴史の中で鍛えられた校風を大事にし、自信と誇りをもって独自の道を歩めば良いと思います。とはいえ、附属にも確かにいろいろな問題があり、それらの問題については、さまざまな意見を聞いて対策を講じる必要があります。

しかし対策と言っても、教育に「特効薬」や「即効薬」のようなものがあるわけではありません。日々の質の高い授業を通し、目の前にいる生徒の能力と個性に応じて学力を確実に身につけさせること。班活動や生徒会活動を通じ

て集団生活・社会生活の基礎・基本をキチンと習得させること。そして将来、高い志をもった社会有為の人材へと羽ばたくよう育てること。教師と生徒、教師と保護者、教師同士の間の強い信頼関係を基に、これらのことを倦まず弛まず、日々着実に積み重ねていくことしかないと考えます。「教育に王道なし」です。と同時に、常に前へ目を向けて攻めの姿勢を保ちつつ、夢を語りビジョンを共有することが肝要かと存じます。その際に不可欠なのは、率直な批判を含む保護者や同窓生からの支援・協力と励ましです。

学校としても、現状についての正確で詳細な情報を積極的に発信・提供していく必要があり、その一環として、魅力あるホームページの立ち上げなど早急に進める所存ですが、アカシア会のみなさまにおかれましても、是非、「わが附属こうあるべし」との積極的なご提言やご意見をお寄せいただくようお願い申し上げます。



附属維新

生徒会執行委員長
松下 英樹

昨年の秋に発足して以来、高校生徒会では、例年にも増して様々な取り組みを行っています。主なものは、生徒会機関紙『附属維新』の創刊、環境に優しい学校づくり、災害時の緊急募金の実施、各種委員会の活性化、挨拶運動の実施などです。中でも、『附属維新』は、学校のホームページでも閲覧できるようになる予定ですので、ぜひご覧下さい。

さて、私たちが今なぜ例年以上の取り組みを行っているかと言うと、それは「生徒自治の確立」を目指しているからです。今現在も他校と比べれば、附属の「生徒自治」はトップレベルのものとして認識しています。しかし、まだまだ「生徒自治」が可能な領域は残さ



中国四川大地震、ミャンマーサイクロン被害緊急募金活動

れており、10年、20年後を見通して、今から、組織体制を含めた様々な点を見つめ直す必要があると考えました。

そのためにもまずは、生徒会の組織基盤を強化し、様々な取り組みに着手しようと考えたわけです。今年からスタートした取り組みが大半ですので、すぐに成果が出るとは思っていません。しかし、来期以降の執行部体制でもこの路線を踏襲し、取り組みを継続的に実行すれば、必ず大きな成果を生むことができると確信しています。

皆様が在学中に築かれた良き伝統を風化させぬためにも、理念は大切にしつつ“いま”に即したものに改めることが大切だと思っています。いつの時代も「自主・自律」を重んじてこれら

た先輩方を尊敬し少しでも近づけるよう、日々精進して参ります。

今年度は、6月28日(土)に文化祭を実施、そして9月6日(土)には体育祭が行われます。ぜひ、母校に足をお運びいただき、生徒自治の一端をご覧いただければ幸いです。生徒一同、心よりお待ち申し上げます。



2008年度 高校生徒総会



左：生徒会機関誌「うごぎ」52号、右：「附属維新」創刊号

2008年度 体育祭 9月6日(土) 8:50～開会式

英国研修

高校1年生の春休みに語学研修・異文化体験を、と始まったオーストラリアでの海外研修は、好評のうちにすでに6回を数えた。このたび、フィールドをさらに広げるべく、オーストラリア研修と並行して、高1・2両学年の希望者による混成メンバーでイギリスでの海外研修を行い、生徒たちは大きな収穫を胸に帰国した。若い柔軟な心で受け止めた体験は、必ずや今後の彼らの活躍の中で、有形無形様々に生かされていくことであろう。

2008. 3.20~4.2

参加生徒の研修日誌より (抜粋)

ついに帰国。関西国際空港に到着した。飛行機に乗っている間に日付が変わったのが変な感じがした。
看板で最初に目に留まるのが漢字でなくアルファベットだということが嬉しかった。

4/2



お別れパーティーがあった。最後の夜だったのにあまり実感がわかなかったが、とても楽しいパーティーだった。たぶん一番たくさん話せた日だと思う。私の英語を理解しようとしてくれて、すごく嬉しかった!!

4/1



3/31

夜に、翌日から始まるサマータイムに向けて、家の時計を1時間ずつ早めた。サマータイムの利点を教えてもらって、いい制度だとは思ってたけれど、時刻を変えなければならぬのが面倒だと思った。

3/30



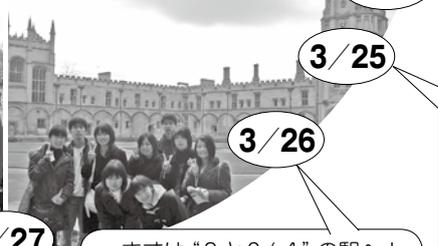
3/29

3/28

情報や数学の授業を、パディと一緒に受け、放課後に広島や附属を紹介するプレゼンを行った。

ダートフォードのグラマースクールを訪問。最初はあまり話せなかったが、帰る頃にはだいぶ話せるようになった。日本語が、思ったより広く学ばれているんだなあという印象と、いろんな人がいるなという印象を受けた。

3/27



3/26

まずは「9と3/4」の駅へ！
映画のまんまだ☆
ぶつかっても何も起こらなかったけど。(笑)
次に大英博物館へ。彫刻やミイラに圧倒された。あっという間に時間が過ぎていった。
最後はレ・ミゼラブルの鑑賞。

3/25

オックスフォードを訪問し、大学とは思えないほどの規模に驚いた。
ハリーポッターファンの私にとって最も印象的だったのはやはりChrist Churchで、映画で観た世界に触れることができたことが、とても嬉しかった。

イギリス到着。バスで移動中に早速ビッグベンやイギリスのきれいな町並みが見られてうれしかった。ロンドンの中にも林みたいなのところがあったのには驚いた。

3/20



イギリスでは「Good Friday」で休日。だけど、私たちはスタディ・センターで勉強した。

3/21

3/22



3/23

ロンドンを観光した。ウェストミンスター寺院やロンドン塔など、いつも写真で見えていたものを目の前にした時は、その迫力に圧倒された。あいにくの雨だったが、とても充実した1日だった。

3/24

第2回 合唱班定期演奏会

と き：2008年8月3日(日) 14:00開演
と ころ：本校講堂
演奏曲：

- ・フォーレ：「小ミサ曲」より
- ・バルトーク：「児童と女声のための合唱曲集」より
- ・佐藤 眞：混声合唱のためのカンタータ「土の歌」
- ・コブクロの合唱曲、他



第32回 管弦楽班定期演奏会

と き：2008年8月9日(土) 17:00開演
と ころ：広島国際会議場フェニックスホール
演奏曲：

- ・カリニコフ：交響曲第1番
- ・ディズニー：Reflections of EARTH
- ・サン＝サーンス：「サムソンとデリラ」より 他



♪ 皆様、是非お越し下さい！ ♪ <入場無料>

小野 文子先生を偲んで

偉大なり小野文子先生 アカシアスキー事始め

松尾 康二(46回)

小野先生が亡くなられた。先生ではあったが年齢が近く、友達づきあいをしていただいてスキー仲間だったから、衝撃的である。弟で元気者だった隆嗣君(46回)が亡くなられたばかりで、なおさら悲しい。

ただ、小野先生の思い出は本当に楽しい。当時は戦後の第一次スキーブームで、私は中学2年から始めたが、同期の野村彰功君も始めていたらしい。すでに45回の光永寛治さんは華麗な回転を見せておられた。昭和28年にはA組のクラス仲間で行くことになり、教生で仲良くなっていた「伏見のお兄ちゃん」こと当時の広島大学山岳部長、伏見正博さんに同行してもらった。メンバーの大方幸三君(現・全国アカシア会幹事長)は経験者だったが、森孝夫君、古田淳一郎君はズブの素人、兵隊靴のかかとに金具を取り付けた時代である。道後山駅からヒュッテまでの雪道9キロ、何しろリーダーが山岳部のベテランだから「ボンボン走りゃあすぐ着くよ」でどんどんとばす。こちらは息も絶え絶えだった。

翌29年には学年各組、且つ男女合同で行こうということになり、新任3年目の小野先生が引率者になって三井野原スキー場に10数名で出かけた。メンバーには森、野村、新見 博(素人)、小生etc、女子は今でも現役アスリートで活躍中の田頭(現・成石)玲子さん、桑田(現・江藤)湊子さんetc。ところが先生は全くの未経験だった。教える生徒の方は野村、小生らで、とにかく靴にスキーを取り付けた。手を離れたとたん、スキーは前に出る、体は残る、で転倒になるが、さすがに体操の先生

で、体を丸めてスキーを真上にしたあと無事、横に下ろす、鮮やかな転倒ぶりは今もまぶたに残る。

先生はじめ初心者が多くいたが、経験者が手分けして教えた。先生にはキックターンとボーゲンの初歩をお教えしたが、あとゲレンデのはずれの方で何かうなずきながら独習しておられた。初日は練習で終わり、駅前の民宿で、女子は北枕、男子は南枕と言う風に、反対方向からコタツに足を突っ込むスタイルである。自然、足が触る。当時すでに1.8メートル近かった森君がごそごそやって「誰や」というと、小野先生が「私よ」。



中田孝子様(49回)アルバムより
大山スキーでリフトにのった小野先生

翌日、たまたま「広島市スキー連盟」の滑降大会があり、ほとんどが参加した。野村君は前年、道後山滑降大会中学生の部で優勝し、新聞に載った猛者で、男子優勝間違いなしと思ったから、女子の手前張り切りすぎてスター



小野文子先生が定年退官されました。卒業式一日前の3月8日、お別れに在校生を県民文化センターに招いて宿願の能「羽衣」を演じられましたが、多くの卒業生も押しかけて通路までぎっしりいっぱい。幽玄の世界から目醒めたあとは鳴り止まない拍手でした。昭和26年に奉職されて以来の永い間、本当にご苦労さま。

(1990.5発行 会報195号より)

ト直後に転倒、6位に終わった。ところが女子のほうは、小野先生が無転倒でゴールイン。優勝してしまい、本命と見られていた人のために用意された優勝カップをさらってしまった。

帰りの汽車の中では大騒ぎで、備後落合駅の停車時間に野村君が何か飲み物を買って来て、そのカップで全員が回し飲みした。その「飲み物」は、先生によれば「ポートワインだった」そうだが、私の記憶とは違う。

この会が、生徒側から申し出たのか、先生方から出たのか、確かめようと思っているうちに亡くなってしまわれた。正規の大山スキー訓練の最初は翌30年の1月4日から8日である。

はじめてスキーを履いて翌日優勝と言うのはまずないだろう。そして男女混合の合宿を、なんとも表現できない楽しさで終わらせていただいた、先生はアカシアスキー史上の偉人である。

そう遠くない将来お目にかかって、思い出話をするのを楽しみにしています。

もうひとつの未来。 WILLCOM

- 低電磁波のウィルコム。全国3500を超える医療・福祉機関で導入されています。
- 企業の通話コストを削減。日本全国モバイル内線 ウィルコム『W-VPN』が実現します。



[ウィルコムホームページ](#)

「バスケット班の母」
小野先生を偲んで

杉山亮一(75回)

私が「おのせん」こと小野先生と初めてお会いしたのは、今から約30年前、中学入学後、バスケット班に入ったときでした。そして私が先生と最後にお会いしたのは、今年1月3日、バスケット班のOB会(附属体育館)でした。開始時間にわずかに遅れていった私を小野先生は、満面の笑みを浮かべて迎えてくださいました。そのときはお元気そうで、まさかそれから一月も経たないうちに他界されることになるとは思ってもありませんでした。

おそらく、アカシア会の多くの方々にとって小野先生は、どちらかという口うるさいとか、よく怒られたという印象が強いと思いますが、私自身も中学高校時代の印象は、まさにそのとおりでした。

私が中学の時は、チームとしては結構強く、県大会で3位という結果も残したりはしましたが、ある意味で附属生らしい無邪気さから、いろいろと事件もあり、小野先生から怒られた記憶しかありません。その後、高校に進み、ある事情から、小野先生に顧問をはずれていただくことになってしまい、私は、小野先生と何となく険悪な雰囲気のまま高校を卒業してしまいました。

しかし、高校卒業後、私がOBとしてOB会で先生と顔を合わせるうちに、その関係はだんだんと変わっていききました。平成2年に退官された後も、小野先生は、お身体の調子が悪い時期を



左から小野文子先生、杉山亮一氏(75回)、板野 幹氏(82回)、朝倉孝之先生(現バスケット班顧問)



平成20年1月3日のバスケット班OB会 前列中央が小野先生

除けば毎回欠かさずOB会に出席され、附属の体育館でOBを待ち続けておられました。特に、毎年正月のOB会ときには、年賀状のやりとりのあるOBを中心に、会に参加できなかったOBの近況を嬉しそうに話しておられました。

思えば、小野先生は、バスケット班の「母」のような存在でした。中学高校時代は怒られてばかりでしたが、それは子どもを心配してのこと。そして、一人前の社会人になってからは、子どもたちの活躍を誇らしく思いながら、毎年2回のOB会に子どもたちが家(体育館)に帰って来てくれるのを待ち続ける…。

そして、小野先生が何よりも望んでおられたのは、自分を媒介にOB同士(つまり兄弟)のつながりを持たせることだったのではないかと思います。

「創立100周年で盛大にOB会をやりたい」と小野先生に相談したのは、平成10年頃のことでした。先生は非常に喜んでくださり、私をご自宅にお招きになって、何かの役に立てば、と昔の名簿等を私に託されました。

そのような小野先生のご協力も得て、平成17年にOB会サイト「アカシア籠球通信」(<http://basket.acacia100.net/>)の開設、平成18年の正月に創立100周年記念OB会の開催が実

現しました。そのOB会開催のときは、ちょうどお身体の加減の悪い時期であったようでしたが、先生はそれを押し付けて来てくださいました。帰りには、小野先生世代のOBが全員、先生をバスセンターまでお見送りし、とても満足そうなお顔を拝見して、「何か親孝行した気分だね」と話したことが、つい昨日のこのように思い出されます。

このように、小野先生がバスケット班の母として、家で子供の帰りを待つようにつむぎ続けてこられたOB会のつながりを深め、現役の世代まで含めた一つのファミリーとしていくことが、小野先生の遺志を継ぐことであり、せめてもの親孝行になるのではないかと思います。

小野先生が亡くなられた約1ヶ月後の3月14日には、70回代を中心として東京在住のOB(東京アカシア籠球会)が14名集まり、「小野先生を偲ぶ会」を行いました。その中で、OBみんなの脳裏に焼き付いている小野先生の口癖が話題になり、その言葉を発しておられるお元気な頃の先生を思い出し、一同、目頭を熱くしてしまいました。その言葉をもって、結びの言葉にさせていただきます。

「前パス、前パス、シュー、シュー」



小野文子先生略歴：

[保健体育 昭和26～平成2年在任]
昭和5年1月2日生まれ。昭和26年広島女子高等師範学校山中高等女学校卒業、同年広島大学広島高等師範学校附属中・高等学校(のちの広島大学附属中高等学校)に赴任。平成20年2月1日死去。享年78歳。

附属において、臨海教育、体育テストの定着などに尽力。山中高女の学徒動員被爆者の調査と追悼に精力的に動かれた。古式泳法や能など、趣味も多彩であられた。

小野先生やすらかにお眠りください

「前パス、前パス、
シュー、シュー」



MIXIコミュ「東京アカシア籠球会」一同



東京アカシア会 春季総会

6月7日(土)、東京アカシア会平成20年度総会・春季懇親会が、東京・文京区の東京大学山上会館で開催されました。母校からは安原義仁校長、原田良三副校長、河野芳文副校長、全国アカシア会からは吉中康麿常任幹事(50回、広島アカシア会副会長)にご来賓としてお越しいただき、総勢160人を超す参加者が集いました。

総会・懇親会に先立って、医師の室塚文子氏(60回)、国際協力機構副理事長の大島賢三氏(53回)のお二人による講演会が開催されました。室塚氏からは、アフリカやアジアに医務官として赴任されたときの体験談を、大島氏からは、災害時の国際人道援助や食糧危機にかかわる国際協力についてお話しいただき、とても国際色豊かな講演会となりました。



講演会

そしていよいよ総会・懇親会です。講演会に出席できなかった参加者も続々集まり、開会を前に会場のあちこ

ちで歓談の輪が広がっています。会場入り口には、増田正和氏(31回)のご案内で、広島・鞆の浦の埋め立て架橋計画問題についての署名コーナーも設けられました。賛同された方々約150人の署名が集まったそうです。

総会・懇親会の冒頭、的川泰宣会長(50回)からの挨拶では、学生会員のみなさんとの交流の場として今年から始まった「アカシアチャンネル」について報告がありました。尾籠裕之事務局長(56回)からは、前年度の決算報告と事業報告、そして、アカシアチャンネルを社会人同士の異業種交流にも広げていきたいなど、今後の事業計画についてもお話がありました。

続いて、この半年間に亡くなられた5人の方のご冥福をお祈りし、黙祷を捧げました。

来賓ご挨拶では、安原校長から、学校のシンボルである講堂が、目の前の渡り廊下がなくなって全貌を現したことで、後輩たちが「附属維新」と呼ぶ学校新聞を発行して学校活性化に取り組んでいることなど、母校の近況をお知らせいただきました。吉中常任幹事からは、今年11月に広島で行われる、な

真を見ながら思い出を語り合いました。ところで私たちが50歳台後半。面影は昔と変わらないのに姿形はそれ相応になってきました。また、多くの友が親を失い、またはその介護に入り、子供たちは次第に独立しているようです。さらにうれしくも孫を迎えた友もあれば、悲しいことにもう会えなくなった友もいます。私たちは世代交代プロセスの入口に到達したのでしょうか。男性は、第2の人生へと移行してい

んと500回(!)目の月例会などについて、ご案内がありました。

その後は、田村順一氏(39回)のご発声で乾杯し、しばし歓談。会場は、現役学生から大先輩まで、世代を超えた交流で終始にぎやかでした。今年の新入学生12人(97回、98回)には、一人ずつ順番に、若々しい挨拶をしてもらいました。恒例となったアンケート抽選会では、賀茂鶴酒造、カルビー、美容室エゴイスタ、サントリーの各社からのご協賛、そして的川会長からは松本零士氏のTシャツを、カーブとサンフレッチェからは選手のサイン入りグッズをご提供いただき、大いに盛り上がりしました。



懇親会

放っておけばいくらでも続きそうな懇親会も、そろそろお開きの時間。参加者みんなが大きな輪になって肩を組み、コールアカシアの方々を中心に、校歌・応援歌を斉唱しました。そして最後は、こちらも恒例となった榎本良二氏(69回)の音頭で「フレー・フレー・フ・ゾ・ク」のエールを会場に響かせ、閉会となりました。森重和春(77回)

く人が増えてきたようです。その移行は必ずしも平坦なものではありませんが、これまでの歩みを振り返りつつ家族のために、そして社会のために新たな環境の中で前向きに生きていこうと努めています。

女性は、多くの人がそれぞれ老人介護など家族の生活を支える重荷を背負い続けながらもそこに埋没するのではなく、社会に目を向け、積極的に生きていこうとするたくましさを感じられ

59東京アカシア便り

梶山直己(59回)

東京アカシア会には、2008年5月現在で43名(うち女性は11名)の59回生が在籍しています。私たちの活動としては、有志が春・秋と集い、近況報告などを兼ねて楽しく会食をしています。最近では母校の開校100年祭に出席した仲間の話を聞き、懐かしい広島の写真

アカシア59回

大学紛争をのり越え、バブルものり切り、ますます輝く!!

<http://www.megaegg.ne.jp/~mharada/acacia59/>

ます。

高校卒業後の私たちの歩みは様々ですが、時代の大きな変化のなかにあります。ふるさとや地域社会だけでなく生活の姿も家族のありかたも変わってきたようです。また、終身雇用や公的年金のように長く当たり前と考えられてきた制度も多くが変化してきています。評価が正反対になったものも少なくありません。

では、このような大きな変化の中でこれからどのように生きていけばよいのでしょうか。戸惑うことは多いですが、少し立ち止まって考える、そのような一時の余裕ができたことをうれしく思います。歳をとることの哀しみと楽しみがおぼろげながら感じられることを喜びたいのです。

例えば、このところ、ずいぶん早く目がさめるようになりました。床の中にと、まだ外は薄暗いのに鳥の声がひとしきり聞こえます。東京にはたくさん生き物が共に息づいていると気づかされます。

また、新しい記憶は維持することが次第に難しくなりましたが、かわりに古い記憶がおりにふれてよみがえります。何十年も前のある日の会話とそのときの情景が目の前に思い出され、今になってその本当の意味に思い至ることもあるのです。記憶の中にはなつかしいものもあり、そこでは時間が凝縮され輝いています。

その他にもこころとからだのやわらかさ、しなやかさが衰えていることに気づく機会が多くなりました。はじめは驚くとともに残念でしたが、今では、このような心身の変化を自覚できる、こころもからだも生きて動いていると感じられる、そのことをうれしいと思うようになりました。最近ジムに通うようになってそのことを改めて実感しています。

これからやってみたい、まだできそうだと、と思えることがたくさんあります。このような心の状態は、実は、経験を重ねるうちに世界と自分についての理解が深まったと錯覚しているため

かもしれません。仮にそうだとでも何歳になっても夢があることはうれしいことです。夢はその人を超えて多くの人に希望を与えるのではないでしょう。

私たちは歴史上まれにみる急速な変化の時代を生きています。昔、スイスで投資銀行の方が、「100年以上前に日本人に国際金融市場で債券を発行する方法を教えたのはわれわれ欧州人だが、ようやくこうして若い日本人と国際金融について対等に話ができるようになったのは感慨深いことだ」としみじみ語られたことを思い出します。日本は変わりました。しかし、それ以上に世界は変わりました。そしてこれからも変わっていくでしょう。これからも広い世界へのまなざしを絶やさないでいたいと思います。

最後に、ひとりひとりが老いを日々感じとりながらもそれを楽しみ、そして、過去と現在だけではなく未来までも話し合えるそのようなごやかな集いがこれからも続くことを願っています。

近畿発 **近畿アカシア会 前期総会**



1. 開会・来賓挨拶

恒例の近畿アカシア会前期総会が6月15日(日)ホテル阪急インターナショナルで開催され、50人の出席者があった。第1部は皇 暢子さん(46回)の司会で開催され、堀内重明近畿アカシア会会長(50回)の開会挨拶のあと、来賓の広大附属高校の安原義仁校長から学校の近況が報告された。第1点は耐震工事を含む校舎改築が完了し、講堂の視界を阻んでいた渡り廊下が撤去され、シンボルの講堂が正門からはっきりと眺められるようになったこと。第2点は、生徒の有志から「附属高校をよりよい学校にしよう」との運動が沸き起こり、「附属維新」と銘打った新聞が年3回発行されるようになったこと。3点目は保護者や同窓関係者への情報提供をより活発にするため、広島大学のホームページ更新に伴いホームページを整備中とのことであった。

2. 議事・役員改選

続いて議事に移り、07年度決算報告

並びに監査報告が行われた。特に監査報告では見門忠雄監査役(46回)より年々次年度繰越金が減ってきている現状を改善する方策の必要性があるとの付帯意見が述べられ、決算は拍手で承認された。08年度活動計画並びに予算案については岡 國太郎幹事長(57回)から説明があり、拍手で承認された。今年度は2年任期の役員改選時期に当たり、堀内会長から現役員全員留任の案が提示され全員の拍手で承認された。また、51回の宇野禎二氏から先日亡くなられた長沼 健氏(39回)を偲んでのスピーチをしていただいた。

3. 乾杯・講話・スピーチ他



左から橋本裁判官と豊島弁護士

乾杯は34回の赤松 清氏にお願いした。赤松氏は、日英両文での絵本『ニャンニャンが吠えるぞ“The cat is going to bark”』を9月に出版されるそうである。乾杯後、豊島秀郎氏(62回：弁護士)から「裁判員制度」についての講話があった。制度のPR用DVDを観たあと、質疑応答の時を持った。当日はたまたま出席されていた大阪地裁裁判官である橋本耕太郎氏(76回)にも答弁に協力いただいた。その後のスピーチでは広島から参加の坂村

昭雄氏(43回)が、8月2日にNHKテレビで放映されるドラマ「帽子」(緒方拳、田中裕子出演)のPRをされた。また初参加の小田原哲一氏(55回)や97回生、98回生にも登壇してもらいスピーチをしていただいた。その後はアカシアソングを斉唱し最後は校歌で締め、記念撮影をして閉会となった。



広島から参加の坂村昭雄氏(43回)

前出以外の出席者：全国アカシア会事務局長(63)甲斐 稔、(38)香川 昇、川本和良、(41)村田好正、(43)大上威雄、黒田昭夫、藤井侃二、水村雅子、(44)井口卓也、内海直志、春日幸子、山本瑤子、(45)岩田斐子、上野徳恵、吉野公敏、(46)生塩之敬、(50)高東尚子、(51)清水邦夫、(57)加藤仁司、森 静子、(60)加藤由紀子、(61)三宅稔男、(64)田頭史明、徳丸義也、(88)武内嘉宏、(94)光武 聰、(96)上田大樹、光廣直史、(97)鶴殿淳之介、片倉綾香、北里龍馬、徳永祐也、藤川千紗、松浦千紘、(98)竹内 亮、中島彰良、三根泰則、峯岸宏行、保本裕介



飛び込み参加の新卒98回生5名

☆次回は12月14日(日)正午から開催を予定しています。



東海アカシア会・豊葦会 総会



春近しとはいえ、まだ雪も降る2月24日(日)、東海アカシア会・豊葦会の総会・懇親会を開催しました。今年も会場は、独創性溢れるフランス料理の『白亜館 葵』です。

昨年夏のビアパーティに続き93回と95回の超若手4人の参加(学生は無料)があり、出席者は計27人、その中で最高齢は今なお若々しく、彼らとは約70歳違う大先輩の西田節子さん(豊26

回)。まさに歴史を感じることが出来ます。

総会を滞りなく終えた後、ご来賓の全国アカシア会甲斐 稔事務局長(63回)、東京アカシア会伯田頼彦副会長(53回)、続いて東海アカシア会齋藤 蒔会長(48回)からのご挨拶の後、プロ顔負けのカメラマン中村博之監査役(43回)による記念写真の撮影。

そして吉本幹彦前会長(41回)のご発声で乾杯し開宴、美味しい料理に舌鼓を打ち、ビール・ワインを飲みながら、参加者の皆さんに近況報告して頂きました。今年は何年と逆の若い順に、趣味、旅行、家族、仕事、そして昔の思い出など語って頂き、3時間会話が途切れることはありませんでした。

アカシア夜話第2話(会報407号)に

登場の鈴木文彦第2代会長(38回、奥様同伴)のご回想、翻訳家の服部清美さん(72回)の呼びかけで初参加の同期生、富吉賢一さん・米倉毅さんのお仕事の様子、これからアカシア会の役員をやってもいいとの井原良和さん(74回)の元気な抱負、など次から次でした。

最後に作曲家梶 幸一朗さん(81回)の指揮で校歌・学生歌を合唱し、夏のビアパーティでの再会を祈念して散会しました。

前出以外のお出席者は、(48)兼川 徹、林 滋、(50)戸田 弘、(55)坂本利彦、(56)板谷和昌、(64)橋本 徹、(65)成瀬まり子、(78)佐藤典子、(87)大矢文恵、(93)石田 充、山下寛泰、(95)村本孝博、中村陽一の皆さんでした。

次の総会は来年2月22日(日)。今回同様「白亜館」で芸術的な料理と美酒を味わえますので、東海地方在住の皆さんは是非ご参加下さい。

3月3日記 沖 信一(55回)

6月例会レポート

開会に先立ち、6月2日に亡くなられた日本サッカー協会最高顧問の長沼健先輩(39回)に黙祷を捧げた。

「学校で教わらなかった税金の話」
熊野留美子税理士事務所
熊野留美子氏(70回)



税法は特別なものではありません。人生の中で、刑法に係わる人は希ですが、税法は、民法・憲法をもとに日常生活の中で起こりうるシーンを想定して作られています。税法を知らないということは、とても恐ろしいことです。

国は、積極的に、「こんなことをしたら税金がかかりますよ」とは言わず、「あなたがした行動には実は税金がかかります」と言ってきます。税の世界も自己責任の世界ですので、知らないは言い訳になりません。

税の中で一番高い税率は贈与税です。なぜなら、贈与税は人間に必ず訪れる相続を逃れて生前に財産を移す行為に歯止めをかけるために設けられた税だからです。そして一番多くミスが見受けられます。身近な例では、生命保険金の課税。100万円以上の場合には税務署に調書が出るので、課税はまぬがれません。契約者と満期の受取人が違う場合に贈与税が課税されます。

なぜ、私達は税金の知識が乏しいの

か?日本では源泉徴収制度と年末調整という、会社(民間)が徴税コストを負担する制度が採用されています。アメリカでは、国民が自分で申告する書類作成にける時間は、平均11時間半。税の知識は当然深まります。サラリーマンが大多数の日本では、租税教育の必要が無かったのです。

税法が難しく思えるのは、一般常識では理解できない税法特有の考え方が存在していることと、租税特別措置法という時限立法で膨大な量の特例が定められているためです。税法では、所有権を移転する行為に課税するため、ただで物をあげても税金がかかります。離婚の場合の財産分与なども課税されることがあり、注意が必要です。

時代の流れは早く、税法も刻々と変化、改正が予定されています。自分の税金を人任せにせず、興味をもって税金を知ることこそ、節税の第一歩だと思います。

乾杯 木村 淳邦氏(39回)



戦時中で物資がなかった附小時代、サッカーボールは他のスポーツ道具より長持ちすると重用され、放課後はサッカー漬けで、長沼さんともサッカーばかりしていました。戦争が本格化した中学からはできませんでしたが、戦後附属のサッカーは隆

盛を極め、昭和20年代前半には2~3回優勝しました。長沼さんはスマートな人だった。今回亡くなられて寂しい思いをしています。



70回生の皆さん

6月例会出席者(敬称略51名)

(39)木村淳邦、(41)新井俊一郎、菊池日朗、高田 勇、浜田逸郎、(43)後藤吟子、西山英明、(44)山本正一、(45)佐古雅則、(48)長谷川忠彦、(49)土井田 泰、(50)井藤壯太郎、小川玲子、松本幸子、吉中康磨、(51)上土康弘、茶藤健治、山本 健、(53)中西忠彦、馬場則行、山手愨正、(55)近森 翠、(57)天島純子、(62)本田和哉、(67)高橋裕子、(69)中尾麻里、(70)奥田和孝、越智ようこ、織田秀和、神原洋志子、熊野留美子、戸板富久子、中野佳子、中村美那子、古元邦子、部谷かおる、榎野ひろみ、松原明子、溝岡雅文、宮本伸一、樺 佳子、(72)片岡郁博、(75)花岡奉憲、(76)赤坐千幸、赤坐正樹、大下洋嗣、岡田美香、高 秀行、松浦勇人、三宅 功、(77)佐々木順一

同期会だより

31回 同期会



平成20年4月2日、安芸郡府中町ソレイユ内キリンプラザにて開催。
 平均年齢85歳の現在まで、4月、10月の会合をこれまで続けて来られたことは幸いである。今回も、東京・大阪からも駆けつけてくれ、お互いの近況など、話に花が咲いた。締めくくりの応援歌、校歌を合唱し、再会を約して会を閉じた。 玉垣秀也

41期会 我らが恩師の尊称は「ヤマアラシ」



4月23日、広島市の「八丁堀シャンテ」に41回生有志が集い「没後28年～我等が青春の師・YAMA-ARASHI～田邊昌美先生を偲ぶ会」を開催した。

来賓として峯子夫人をお招きし、会場正面の遺影を前に、全国から馳せ参じた教え子が、強烈な魅力と個性で印象的だった恩師を偲び語り合った。

愛称「ヤマアラシ」とは、被爆全焼して賀茂郡西条町を流転していた昭和21年春、戦地から復員着任した当時の頭髪形状と情熱ぶりから、と再確認。

英語の授業より、名画「羅生門」「心の旅路」「情婦マノン」の名解説など魅力的で多様な授業は、思春期の多感な我々に多大の影響を与え、以後の人生を定めるに至った教え子も多い。

こよなく酒を愛した先生愛用の酒器そっくりの備前焼をご夫人に贈呈し、全員で遺影に乾杯。エピソードと思えば出話に時間を忘れる偲ぶ会であった。

西田 宏

46回生同期会 IN 広島

第46回生の同期会はここ数年毎年開



いているが、今年は4月19日、ホテルグランヴィア広島に48名が集まった。幹事の開会の辞に続き、85歳でなお矍鑠とされている磯貝英夫先生のお話に元気を分けて頂いた後、この1年間に亡くなった2名の級友と、多幾山治子・小野文子両先生のご冥福をお祈りした。会食に移って、級友達のスピーチに耳を傾けながら歓談に花を咲かせた。

翌20日、JRで西条駅まで移動した東広島散策組38名は、移転した広島大学を見学し、そこで大切に保存されている、被曝した東千田町の旧理学部の玄関扉等にも対面することができた。

その後、賀茂鶴酒造に隣接する「蓬莱庵」で、石井泰行アカシア会会長からご挨拶を頂いた後、お茶を一服頂戴し、素晴らしい日本庭園や和風建築物をじっくり拝見させて頂いた。続いて隣のレストランで『美酒鍋』なるものに舌鼓をうった。

食後、来年は京都で会うことを決めて帰途についた。50数年前の中学・高校時代にタイムスリップした「おい、お前」の楽しい3日間であった。

西郷知夫

56回 同期会



初夏の日差しも眩しい5月31日(土)、私たち56回生は松井 坦・福森信夫両先生をお迎えし、ANAクラウンプラザホテル広島にて還暦祝賀会を行った。昨年の高松でのプレ還暦の会に続く集いは、母校の在る広島でということだった。土曜日の夕刻から翌日曜日にかけて日程が組まれ、参加者は、常連の者や久々に参加した面々を含めて全国各地から46名(男性30名、女性16名)。

まずは全員で記念撮影。続いて広島の実況と今後思いを馳せた後、先生方や久々の参加者からショートスピー

チをいただく。楽しい談笑の輪があちこちに広がっていた。そんな中で、「友人がいると長生きができるね。」という言葉が印象深い。その夜は二次会から三次会四次会へと心趣くまに……

日曜日午前中は希望者22名で母校訪問。長年お勤めになっていた藤川泰之先生のご案内をいただき、お蔭様で驚きと感動のある大変充実した見学となった。

両日共、同時代を生きてきた者同士の共感と優しさの溢れた心楽しい会になった。早くも来年の名古屋での再会を楽しみにしているところである。

片岡孝子

アカシア58 卒業40周年記念会



今年もやりました58回同期会。5月24日(土)、場所は呉阪急ホテル14階レストラン「ベッセ・ボワール」、参加者は24名。雨ということもあり、同店自慢の夜景がかすむ中、フランス料理のテーブルマナーもどこへやら、幹事の粋な計らいでワインにビール、日本酒、ウイスキーなど飲み放題でいつものワイワイガヤガヤが、部屋を移しての二次会まで延々と続いたのであります。気を使わないお気楽な会がモットーなのです。

翌日は晴天、車5台に分乗して一路「下蒲刈島」へ。当地は江戸時代の友好使節団「朝鮮通信使」が上陸した場所で、記念館を中心とした「観松園」という観光ブロックがあります。ボランティアガイドの丁寧な説明のもと少し駆け足ではありましたが堪能することができました。島民も使うことのない迎賓館で、くつろいだ雰囲気での昼食のあと現地解散ということになりました。来年は、東京です。桑田君ががんばっています。東京在住の人は協力をよろしく。 大辻 明

65回 同期会

5月最後の週末、65回生同期会が約20名の参加を得て、厳島の老舗旅館岩惣にて挙行された。

露天風呂で疲れを癒す暇も有らばこそ、鉄の規律を求めるM幹事の指揮の下、大宴会は定刻に開始。1時間もせ



ぬうちに何者かの手で宴会場付属のステージの扉が開かれるや、2本のマイクを求めて全員がステージに殺到、金屏風の前で紅のモンペに身を包み踊り狂う者も出る始末。筆者は、浅ましさに呆れながらも、記録者としてただ一人正気を保つのに必死であった。

何の迷いもなく二次会に突入したが、夜が更けるにつれ静けさを増す厳島の中で、岩惣の一室のテンションだけが異様に上がっていく。その場の描写は、もはや筆者の力の及ぶところではない。ご想像にお任せする。

翌日は打って変わった晴天。遊覧船を借り切って、島内十箇所もある神々の祠を巡った。日本に八百万の神々がおられるというのもあながち嘘ではないと得心した。延べ630拜、420拍を捧げたからには、アカシア会の更なる発展は保証されたも同然だ。 乗越秀夫

66回 ゆる〜い例会と東京例会



66回は昨年のお正月に遅ればせながら50歳になったのを記念し、5時間ロングランという同窓会を広島で開催いたしました。先生に授業をやっていたいたり、フォークダンスや腕相撲大会まで飛び出す、とても楽しい同窓会でした(もちろん二次会も延々)。

東京では毎夏ミニ同窓会(ミニとはいえ50人規模)を開催していましたが、広島では第3金曜日に「66回ゆる〜い

例会」を開いています。「ゆる〜い」というのは場所と時間だけ決まっています、都合のあった人だけ集まるという意味ですので、幹事だけ淋しくビールを飲んで解散!ということもありましたが、この日に出張をあわせての参加も少なくありません。4月のゆる〜い例会には退官ホヤホヤの横山道昭先生にご参加いただいたり、人事異動で広島に戻った大根君、出張で参加の妹尾君と楽しい顔ぶれで大賑わいでした。

66回は引き続き広島のゆる〜い例会、東京での例会(ミニ同窓会)を続けますので、皆さん、是非元気な顔を見せてくださいね。 鈴木俊哉

75回・76回 合同クラス会



1月2日(水)、有田嘉伸先生、南村俊夫先生、藤川泰之先生、井ノ迫泰弘先生をお迎えて広島アンデルセンにて合同クラス会を開催しました。留学を契機に両学年に在籍した安部良君の肝煎りで合同開催の運びとなりました。

両学年併せて55名に加えて御家族の方々にも多数おいでいただき、大変な賑わいとなりました。学年が違うとさすがに卒業以来という再会も多かったのですが、すぐに20数年前にタイムスリップ、大いに盛り上がりました。

合同開催で懐かしい顔も2倍、話題も2倍、学年を担当していただかなかった先生にもお会いでき実に有意義でしたが時間は半分を感じるほどで、予定の3時間があっという間に過ぎていきました。 花岡奉憲(75回)

当日の様子は以下のアドレスで御覧になれます。

<http://picasaweb.google.co.jp/tomoe.s212/20087576>

アカシアサッカークラブ 現役戦・総会 開催される



去る6月1日(日)、附属高校グラウンド及び、リーガロイヤルホテル広島にて、現役戦(OB対附属中学)及び総会が開催されました。恒例の現役戦にはOB総勢23名が母校グラウンドに集いました。チーム最年長は44回大橋謙三さんで、最年少は87回管 崇暢さんでした。試合は25分ゲームを4本行い、51回小城得達さん、56回高田豊治さん、63回白井敬司さん、68回三浦義夫さん、69回山下勝也さんらの得点で7対1とOBチーム圧勝でした。若手がしっかり守りベテランが得点するバランスの取れたOBチームでした。

総会には25名が参加。新代表幹事に71回先本賢司さんが選出され、幹事も若返りが図られました。その後の懇親会には、赴任時から退官まで終始サッカー班部長を務められた定末誠治先生[昭和28年~60年在任]がお見えになり御健在ぶりを披露されました。赴任当時は監督不在で現役指導にあたられた43回吉田文次郎さんらの猛烈練習に驚かれたことや、その試練に鍛えられた選手が日本を代表する名プレイヤーに育っていかれた様子など当時の回顧談を披露されました。

石川敏宏(72回)

37回 傘寿祝賀級会 開催のお知らせ

37回生は本年傘寿を迎えます。其の祝賀級会を10月末か11月初めに広島で開催致します。詳細は8月中にご案内致しますが、早めに予定し、多数ご参加ください。

世話人 福原有光・大谷 正



福屋八丁堀本店

Faithful & Friendly
皆様の百貨店、Fukuya。

Fukuya



福屋広島駅前店

総 会 議 事 資 料

平成19年度 アカシア会 収支計算書

自：平成19年4月1日～至：平成20年3月31日

会 長 石井 泰行
幹 事 長 大方 幸三
会計幹事 畑 秀樹

■当年度会計の部

収 入 の 部		支 出 の 部	
会員終身会費	110,000	会報発行費	2,750,909
会員年会費	15,000	名簿発行費	20,486
準会員入会費	0	通信費	33,352
新卒者終身会費	2,000,000	電話料	46,420
新卒者入会金	1,000,000	旅費交通費	424,830
名簿代金	14,000	会議費	109,523
広告料	430,000	人件費	1,512,425
預金利息	3,507	事務用品費	33,456
アカシア基金運用益	130,076	母校宛寄付金	70,000
寄付金収入	35,000	手数料	8,570
基金売却益	0	雑費	108,978
雑収入	156,000	器具備品費	140,700
その他の収入	0	追悼の集い諸経費	68,204
		S S 講座諸経費	0
		その他の支出	1,000,000
		支出の部合計	6,327,853
		当年度剰余金	▲ 2,434,270
収入の部合計	3,893,583	合 計	3,893,583

■余剰金の部

(単位：円)	
前年度繰越額	3,323,899
当年度剰余金	▲ 2,434,270
基金受入額	0
差引翌年度繰越額	889,629

■アカシア基金の部

(単位：円)	
前年度繰越額	28,700,000
当年度受入額	1,000,000
基金支出金	
差引翌年度繰越額	29,700,000

監査報告書

上記収支計算書および財産目録につき監査の結果、適正に経理されていることを認めます。
平成20年5月12日 監事 松本 峯春 ⑩ 監事 寺越 慎一 ⑪

■総会で審議予定の議案

◆平成19年度の事業・決算報告

- (1) 事業報告
・アカシア会報の発行
会報 平成19年7月 11,700部
平成20年1月 11,700部
・各地区アカシア会との連携強化

(2) 決算報告

(3) 監査報告

◆平成20年度事業計画・予算案

(1) 事業計画

- ・アカシア会報と名簿の発行
会報 平成20年7月 11,800部
平成21年1月 11,800部
名簿 平成20年10月 1,100部
・各地区アカシア会の連携強化

(2) 予算案(略)

◆その他

※全国アカシア会役員(案)

会 長 石井 泰行(43回)

副 会 長 後藤 吟子(43回)

的川 泰宣(50回)

堀内 重明(50回)

向井 恒雄(50回)

幹 事 長 大方 幸三(46回)

副幹事長 白井 孝司(59回)

会 計 畑 秀樹(70回)

監 事 高橋 正光(46回)

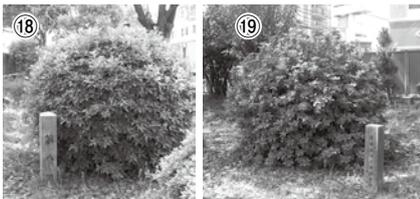
寒川 起佳(51回)

構内記念碑・記念樹 ⑨

今回も構内の北側を紹介します。



前回紹介したの謝恩碑の隣にある、丸く刈り込まれたヒラドツツジ。その前後に、2つの石柱がある。北側には、⑩昭和42年(1967)、46回生卒業50周年記念という石柱が、南側には⑪昭和44年(1969)、48回生卒業50周年記念という石柱が立っている。



この樹がどちらの回の記念樹か、また何を植えたか記憶のある46回、48回の方はご一報を！

配置図については2008年1月号の

「構内記念碑・記念樹⑤」を参照

常任幹事会開催

6月11日(水)、アカシア会館にて、全国アカシア会常任幹事会が開催された。今回は改選の年にあたり、16人の常任幹事が新任され、若返ったメンバーが多数出席した。



組織と財政の検討のために、特別委員会を立ち上げることが承認された。また、10月発行予定の名簿へ広告主取得の拡大のために、常任幹事が声かけに努めることとなった。

アカシア会会員数(08年6月4日現在) (単位：人)

	人数	男性	女性
会員数	14,456	9,951	4,505
現存者	10,777	6,642	4,135
不明	986	723	263
物故者	2,693	2,586	107

事務局だより

◆アカシア会 コミュニケーションサイトに、「アカシア探検隊」と「アカシア夜話」のバックナンバーを掲載！
<http://www.acacia100.net/index.html>

◆異動の連絡にご利用ください。

アカシア会ホームページから住所変更・月例会報申込などができます。

◆維持会費未納の方へ

「維持会費未納の方へ」が入っている方は、維持会費1万円(または年会費1000円)を、同封の振込用紙でお振込ください。

◆コールアカシアよりお知らせ

創設20周年記念演奏会の出演者募集

『佐藤 眞を歌う会』

日時：11月24日(月・振休)

場所：広島県民文化センター

問合せ：TEL082-923-8332 猪原氏(49回)

恩師の訃報

藤原 與一先生 平成19年10月23日

小野 文子先生 平成20年2月1日

田中 浩造先生 平成20年2月9日

謹んでご冥福をお祈りいたします。

川瀬博之(49回)さんからのご紹介



自己紹介と、次号の登場人物の紹介をいただくコーナーです。

自己紹介と、次号の登場人物の紹介をいただくコーナーです。

出てもろうてもええかいのお

会員リレー紹介 16

項目説明

- ① お名前と卒業回数
② お住まい
③ お仕事、自己紹介、母校の思い出
④ 次号の登場人物とあなたの関係

土岐 茂(84回)さんからのご紹介



平成15年に広島に戻って来ました。広島大学病院の精神科に入局し、平成16年より実家の精神科病院に勤務しています。中高時代の部活はテニスと管弦で、どちらも現在も趣味として続けています。

- ① 増田 幸枝(85回)
② 広島市南区
③ 附属高校を卒業した後、東京医科大学に進学し、大学6年間と研修医の2年間を東京で過ごす

(48) 鬼武健二→(48) 中村成朗→(64) 藤田(野口)典子→(48) 原田 浩→(69) 榎野(奥田)浜子→(94) 重本正樹→(67) 山田(古谷)祐子→(65) 橋本 聡→(元教官)野中幹夫→(61) 古田篤良→(51) 林 道義→(51) 高木(栗田)美波→(52) 松本(竹内)哲郎→(52) 大森(重藤)邦子→(49) 川瀬博之

これまで 会員リレー紹介に 登場した皆さん

(82) 大魚信頼→(92) 中富つばさ→(88) 進藤英朗→(84) 角本典子→(83) 高原英朗→(84) 竹内(池田)智子→(85) 酒永洋介→(88) 谷本香織→(86) 大崎直樹→(88) 岡井英里子→(80) 杉山陽一→(82) 中前(島筒)里香子→(89) 西山宗希→(80) 木下(森田)亜希子→(84) 土岐 茂

月例会報に、新企画 続々登場!

- ① 新連載「浩然の気 ～恩師の回想～」
最終頁に元教官の先生による回想を随時掲載。第1回(5月号)は、野地潤家元校長に登場いただきました。次回(9月号)は、田中昭男先生の予定です。11月・12月・2月もお楽しみに!



- ② 新連載「ビバ! アカシアカップル」
250組を超えるアカシア会員同士のカップルの中から、2組ずつが登場します。第1回(8月号)を飾るのは、どんなカップルか、お楽しみに!?
- ③ 好評連載中「友誼の御園」
昨年度から始まった母校だより。今

- 年度は、新連載「浩然の気」と交代で、4月・6月・7月・8月・10月・1月・3月の7回を予定。
④ 毎月好評連載中! リレー紹介
「出てもろうてもええかいのお」
知り合いにバトンを渡していくコーナーです。次のバトンを渡されるのは、あなたかも…。
⑤ 不定期連載「構内記念碑・記念樹」
記事を片手に、緑豊かな学校内を散策しては?

アカシア会報は2種類!
『全国版』年2回発行 無料
『月例版』年10回発行 有料
(購読料納入者に送付)

会報アカシア月例版 ぜひご購読を!
連載を欠かさず読むには、月例報の購読を。平成20年度年間購読料として2000円をお振込ください。今年度バックナンバーもお送りします。
☎01300-6-34213「月例アカシア会」

原爆死没者および戦没者 追悼の集い



8月6日(水)午前9時～ 広大附属高校内の慰霊碑前

式典終了後に講堂で、当時科学学級4年生で授業中に被爆した山野上純夫氏(38回)が、自らの被爆体験を語る会を開催します。多数ご参加を!
また、10時から、広島大学東千田キャンパスで広島大学の原爆死没者追悼式も行われます。

飲酒は20歳を過ぎてから。

常に品質最高を心がける

本社・醸造蔵 / 〒739-0011 広島県東広島市西条本町4-31 TEL(082) 422-2121
東京支社 / 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸屋町1-12-9 TEL(03) 3668-4111

賀茂鶴酒造株式会社

石井泰行(43)



この一杯は 豊饒の海
君がいて 宇宙が歌って
果てもなく 夢かりたてる
飲ぶの歌 辛さその日も